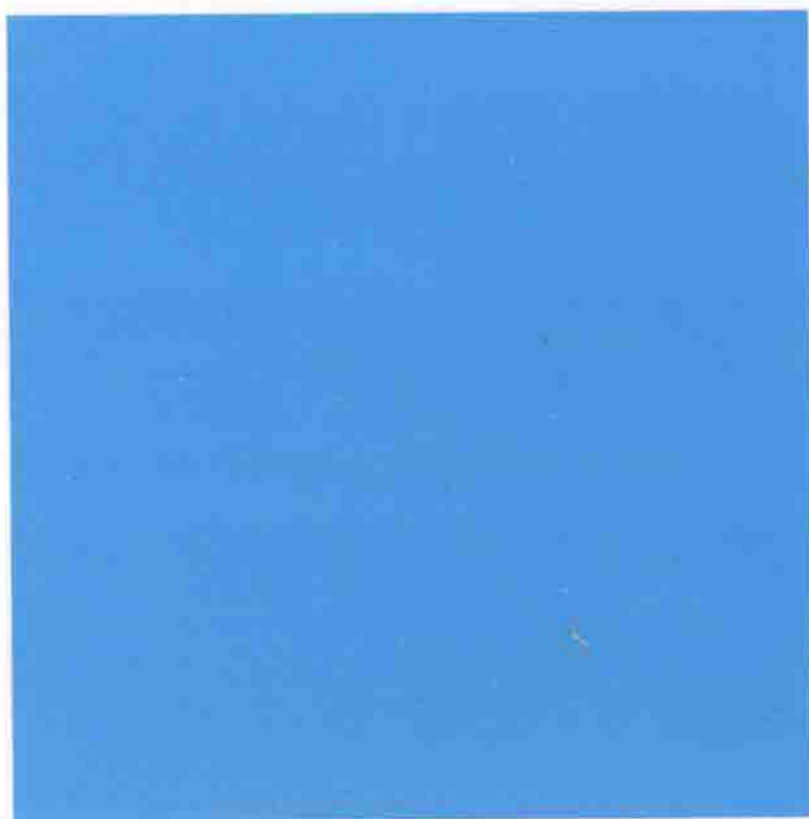


ウェブでの＜伝わる＞ 文章の書き方

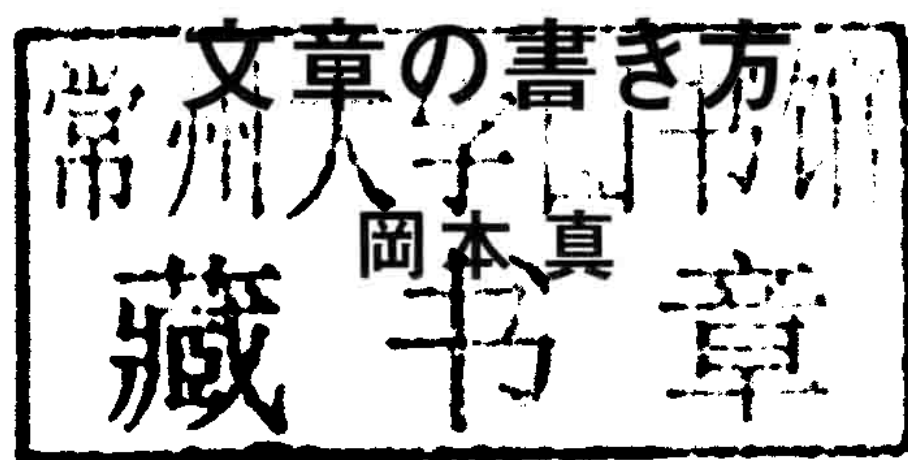
岡本 真



講談社現代新書

2187

ウェブでの〈伝わる〉



講談社現代新書

2187

N.D.C.801 174p 18cm

ISBN978-4-06-288187-6

講談社現代新書 2187

ウェブでの^{つた}＜伝わる＞^{ぶん しよう}文章の^か書き方^{かた}

2012 年 12 月 20 日第 1 刷発行

著 者 ^{おかもと まこと}岡本 真 ©Makoto Okamoto 2012

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目 12-21 郵便番号 112-8001

電 話 出版部 03-5395-3521

販売部 03-5395-5817

業務部 03-5395-3615

装幀者 中島英樹

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan



本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。㊞〈日本複製権センター委託出版物〉複製を希望される場合は、日本複製権センター（03-3401-2382）にご連絡ください。落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。

目 次

まえがき 3

第1章 ウェブでの文章 11

そもそも論としてのウェブの特徴／読者を考えた文章の必要性／ウェブでの文章を読んでみよう—これで伝わる？／グッドプラクティスに学ぶ

第2章 ウェブでの＜読まれる＞＜伝わる＞文章 37

「目にとまる」から「読まれる」まで／「読まれる」から「伝わる」まで／惹きとなる見出しの大切さ—Yahoo!トピックスに学ぶ／ウェブならではの4W1Hとは／「いつ」の大切さ—日時の書き方／「どこで」の大切さ—場所の書き方／ウェブでの文体論

第3章 ウェブでの文章表現術

—htmlの基礎的な理解を兼ねて 79

短文で書く／改行を入れる／箇条書きにする／リンクを用いる／画像を差し込む／変化を明示する／さらに＜伝わる＞文章を書くために—専門用語への注意

第4章 ウェブで＜伝わる＞文章のための実践講座 113

お知らせを書く／イベントを告知する／応用：ソーシャルメディア時代の文章術／注意・関心、そして共感を呼ぶための表現とは／感情を表現することの大切さと難しさ／波及や切り貼りを考慮した文章

第5章 さらに＜伝わる＞文章を書くための基礎知識 139

編集・校正の基礎知識を身につける／記号の使い方—代表的な記号／句読点の統一／記号の全角・半角の使いわけ／数字と英語の表記／自分でできる校正の基礎の基礎／原稿を渡す際のひと工夫／ソーシャルメディアでの文体／ウェブでの文章の日常的な上達法

第6章 ＜伝わる＞ためのコミュニケーション 161

ウェブでの文章の難しさと面白さ／＜伝わる＞ためのコミュニケーションとは／おわりに

参考文献 170

ウェブでの＜伝わる＞ 文章の書き方

岡本 真

講談社現代新書

2187

まえがき

本書に目をとめ、手にとっていただきありがとうございます。
います。

ところで、みなさんはどのような人でしょうか。

おそらく本書のタイトルに目をとめ、本書を手にした
ということは、みなさんは、

- 仕事でウェブにちょっとした文章を書くことが多い人
- ウェブに文章を書きはするものの、ウェブの制作に直接関わっているわけではない人

ではないでしょうか。

そうであれば、本書はきっとみなさんに役立つと信じています。

もちろん、ウェブのエンジニアやデザイナー、プロデューサーやディレクターなど、ウェブに直接携わっている方にも本書は役立つはずですが、その場合は、あらためて気づくことによって役立つ、ということが多いかもしれません。

さて、書名にもあるように、本書では、「ウェブ」で
<伝わる>ことをテーマにしています。

これはどういうことでしょうか？

最初にこのことから、お話しさせてください。

まず「ウェブ」でという点です。

ウェブはすっかり普及し、私たちの日常に入り込んで
います。

ウェブで調べ物をすることや買い物をすることは、決
って珍しいことではありません。ウェブでニュースを
読むことや、コミュニケーションすることも当たり前に
なっています。

しかし、ここでちょっと立ち止まって考えてみましょ
う。ウェブでの調べ物や買い物は、図書館やスーパーに
行ってする調べ物や買い物とは少し異なります。

また、ウェブでニュースを読むことやコミュニケーション
することは、紙の新聞を読むことや、直接相対して
おしゃべりすることとは、やはり異なります。

では、ウェブで書くということについてはどうでしょ
うか。

日本で生まれ育てば、基本的には、だれもが日本語で
文章を読み書きすることが当たり前に行えるようになります。

ウェブで文章を読み書きすることも、だれもがなかば当然のようにしています。しかし、ウェブで読み書きすること、特に書くことは、紙に書くこととまったく同じと言えるでしょうか。

私の答えははっきりしています。少なくともいまの段階では、ウェブで文章を書くということは、紙に文章を書くということと、異なる点が少なからずあります。

本書を通してその違いを明らかにしていきたいと思います。ウェブの文章は紙の文章とは異なること、そして異なる以上はウェブにはウェブの文章の書き方があると主張したいと思います。

さて、次に、＜伝わる＞ということです。

私たちはよく、家庭や職場で「この件は伝えたよ」「いや、聞いていない」というやりとりをしてしまいます。

このようなやりとりは、おうおうにしてとても不毛なものです。結局は、「言った」「言わない」、「聞いた」「聞いていない」という水掛け論になってしまいます。

では、なぜこういうやりとりが生じてしまうのでしょうか。

私が考えるその答えは、私たちは＜伝わる＞ことをつ

いつい軽く考え見過ごしてしまうからです。

忙しい日常の中で、私たちは「伝える」ことだけを考
えてしまい、本当に自分のメッセージが相手に「伝わっ
た」のかということを忘れてしまいがちではないでしょ
うか。

こういうことを私が考えるようになったのは、私がか
つてYahoo! JAPANでウェブプロデューサーとして働いて
いたことと無縁ではありません。10年に及ぶ在職期間
の後半、私はYahoo!知恵袋というサービスを世の中に送
り出す仕事をしていました。

ウェブのサービスは、しばしば仕組みが変わります。
その際、機能や制度の変更を「お知らせ」という形で利
用者に伝えていくのですが、このコミュニケーションに
はおおいに苦労しました。

ウェブの場合、すべての利用者に口頭で直接説明する
ことは基本的にできません。

もちろん、画像や動画で説明する方法もあります。画
像には画像の、動画には動画のメリットがそれぞれあり
ます。

しかし、ぱっと見ただけで、ある程度理解してもらう
には、やはり文章は有効です。

ですから、ウェブでどう文章を書くか、特に利用者に

<伝わる>文章を書くか、ということは、一貫した課題でした。この課題を少しでも解決したいという思いが、本書の執筆動機になっています。

さて、あなたが発信した文章はその文章を届けたい相手に届いているでしょうか。ただ、「伝えた」だけに終わっていないでしょうか。

文章は相手に届き、その内容が伝わってこそ初めて意味を持ちます。どうすれば、ウェブで相手に<伝わる>文章が書けるようになるのでしょうか。

本書では、Yahoo!知恵袋で4年ほどの間、伝えることを意識して「お知らせ」等の文章を書き続けてもなお、私自身が日夜悩んでいるこの疑問を解いていきます。

本や新聞、雑誌と異なるウェブの特徴や特性を踏まえつつ、Yahoo!知恵袋の「お知らせ」執筆の経験と反省に基づいて、少しでも多くの人に届き<伝わる>文章の書き方を探っていきたいと思います。

目 次

まえがき 3

第1章 ウェブでの文章 11

そもそも論としてのウェブの特徴／読者を考えた文章の必要性／ウェブでの文章を読んでみようーこれで伝わる？／グッドプラクティスに学ぶ

第2章 ウェブでの＜読まれる＞＜伝わる＞文章 37

「目にとまる」から「読まれる」まで／「読まれる」から「伝わる」まで／惹きとなる見出しの大切さーYahoo!トピックスに学ぶ／ウェブならではの4W1Hとは／「いつ」の大切さー日時の書き方／「どこで」の大切さー場所の書き方／ウェブでの文体論

第3章 ウェブでの文章表現術

ーhtmlの基礎的な理解を兼ねて 79

短文で書く／改行を入れる／箇条書きにする／リンクを用いる／画像を差し込む／変化を明示する／さらに＜伝わる＞文章を書くためにー専門用語への注意

第4章 ウェブで＜伝わる＞文章のための実践講座 113

お知らせを書く／イベントを告知する／応用：ソーシャルメディア時代の文章術／注意・関心、そして共感を呼ぶための表現とは／感情を表現することの大切さと難しさ／波及や切り貼りを考慮した文章

第5章 さらに＜伝わる＞文章を書くための基礎知識 139

編集・校正の基礎知識を身につける／記号の使い方—代表的な記号／句読点の統一／記号の全角・半角の使いわけ／数字と英語の表記／自分でできる校正の基礎の基礎／原稿を渡す際のひと工夫／ソーシャルメディアでの文体／ウェブでの文章の日常的な上達法

第6章 ＜伝わる＞ためのコミュニケーション 161

ウェブでの文章の難しさと面白さ／＜伝わる＞ためのコミュニケーションとは／おわりに

参考文献 170

第1章

ウェブでの文章

第1章では、まずウェブでの文章の特徴を考えます。

ウェブでの文章とその他の媒体、特に紙の媒体での文章には違いがあるというのが、本書の基本的な立場です。では、なにが違うのかをみなさんに実感していただきましょう。

そもそも論としてのウェブの特徴

そもそもウェブとはどういうものでしょうか。

いきなり広がりがありすぎる話になってしまいますが、私たちがいまや当たり前のように使っているウェブというものについて、少し考えてみたいと思います。

ウェブは、1990年から1991年にかけてイギリス人のコンピューター研究者であるティム・バーナーズ＝リーが発明して以来、わずか20年の間に世界中に広まりました。いまや水道や電気、ガスに並ぶ、いわゆる社会インフラになっています。

これほど急速に普及するようになった大きな理由のひとつは、だれでも不特定多数に向けて情報を発信できる仕組みであるということです。

これまで情報発信の主流であった紙の新聞や雑誌は、とても個人が思いつきで出せるものではありませんでした。本を出すということも、だれもができることはありませんでした。チラシやポスターをつくることは個人